

2016(平成 28)年度海外客員研究員奨学金制度報告書

海外客員研究員	Dr. Anura De Zoysa (University of Wollongong, School of Accounting, Economics and Finance, Senior Lecturer)
受入教員	高岡伸行(経済学部教授)
共同研究テーマ	日本企業のサステナビリティ・プラクティスとその経営構造の調査・研究
実施内容	<p style="text-align: center;">＜実施期間＞</p> <p>2016年9月10日～12月5日</p> <p style="text-align: center;">＜活動内容＞</p> <p>2016年9月12日 和歌山県経営者協会訪問, アンケート調査の打合せ。 2016年9月1日～30日 アンケート調査「CSR経営への取り組み状況に関する国際比較調査アンケート:和歌山企業版」の実施。 2016年10月1日～11月15日 アンケート集計及び分析。 2016年11月26日～12月1日 名古屋大学経済学研究科小沢研究室資料収集・打合せ。</p>
成果	<p>論文</p> <p>高岡伸行, デ・ゾイサ, アヌラ[2017]「ベネフィット・コーポレーションの制度設計思想とそのサステナビリティ・マネジメントへの影響」, 『日本経営倫理学会誌』No.24(掲載決定)</p> <p>De Zoysa, Anura and Takaoka, Nobuyuki[on contributing]“Corporate Social Responsibility Performance of Small and Medium Enterprises in Regional Japan: An Empirical Examination”</p> <p>調査</p> <p>アンケート調査:高岡伸行・De Zoysa, Anura「CSR経営への取り組み状況に関する国際比較調査アンケート:和歌山企業版」(和歌山県経営者協会との連携・協力に基づく産学共同調査)</p> <p>その他</p> <p>講演会:Anura De Zoysa “ ISO26000 and its impact on CSR performance of companies in regional Japan(ISO26000のCSRマネジメントへのインパクト:地域中小企業のCSRパフォーマンス特性)” 2016年11月17日 於:和歌山大学経済学部本館5階第一会議室</p>
今後の展望	<p>講演会で報告した, アンケート調査の集計結果及び簡易分析を研究ノートとして年度内に発行する。また共同研究テーマに則して, 当該アンケート調査の分析を進める。それを受入教員が2012年に実施した同種のアンケート調査の分析と照らし, 和歌山県下事業所のCSR経営の変遷や特徴を学術論文としてまとめる。その基本コンセプトや枠組みは, 成果欄で記載した学術論文にまとめている。</p> <p>さらに本共同研究のテーマと関連づけ, 当該アンケート調査の趣旨であるCSR経営の国際比較の調査を遂行するために豪州, 加奈陀, 中国において, 同趣旨のアンケート調査を実施する計画である。まずは2017年に豪州企業のCSR経営の取組状況を同一フォーマットの調査票にて実施する予定である。</p>